

《 片付け 》

2nd Advent A
2025.12.7 ミサ説教

私の子どものころの思い出です。ある日、父が仕事から帰ってきて家に入ったとたんに言いました。「汚い。何で物がめちゃくちゃに散乱しているんだ。」と。母をはじめ、姉と私はやっていることをやめて、家の中のものを片づけ始めました。父は汚い散らかった家が我慢できませんでした。見ると、すぐ不平を言い出しました。母は姉と私に、「朝、起きたら、まず、自分のベッドを片づけるように」と言いました。本当に、家庭、家族は子どもたちにとって、最初の学習環境です。

さて、垂水教会での、ある日の午後のことです。近所の子どもたちが教会のグランドで遊んでいるの見て、私は彼らの方に近づきました。すると、一人の男の子が友達にお菓子を配って、また、お菓子の紙を集めたのが見えました。日本人にとって、清潔さは大切です。それは幼い頃から教えられます。子どもたちは定期的に手を洗い、ゴミはゴミ箱に捨て、借りた場所を去る前に、そこをきれいにするように教えられます。スポーツの試合が終わった後、あなた方がスタジアムを去る前に、自分の場所を掃除している姿を世界が何度も見ました。世界中の人々があなた方の行いを見、褒め、感銘を受けました。

兄弟姉妹の皆さん、くさい臭いがするので、私たちはきたない人たちから離れようとします。その人たちの臭いや見た目が我慢できません。待降節の第二の日曜日の福音は洗礼者のヨハネについて語っています。福音によりますと、彼は水のない場所、つまり、荒れ野に住んでいました。彼の服はラクダの毛と革のベルトで出来ていました。彼のライフスタイルは禁欲的でした。彼のメッセージは悔い改めだったということです。すなわち、「悔い改めよ、天の国は近づいた。」と。予言者イザヤは彼についてこのように話しました。「呼びかける声がある。主のために、荒れ野に道を備え、私たちの神のために荒れ地に広い道を通せ。」と。彼の方に誰が勇気をもって近づくのかが私にはよくわかりません。動物の皮で作った服を着て、水が不足している場所に住んでいる男性の臭いを嗅いでみますか。

もしも、洗礼者ヨハネの臭いや見た目が我慢できないとしても、彼のメッセージには耳を傾けるべきものです。洗礼者はこのように宣言しま

した。「悔い改めよ、天の国は近づいた。」と。悔い改めることは彼の明確なメッセージでした。私たちは何度も繰り返しそれを聞きました。よくそれを知っています。しかし、今回は、悔い改めは二つの点で理解しましょう。まず、散らかった物を片づけなさい。自分の汚れは自分で掃除すると言う点で理解しましょう。

罪を犯すと、人生がめちゃくちゃになります。罪はめちゃくちゃです。罪は乱れです。「悔い改めよ、天の国は近づいた。」と洗礼者ヨハネは宣言した時に、それは回心し、魂を清め、正しい生活を送り、罪から自分を解放し、神の元に立ち帰るという意味です。自分の部屋を掃除するとき、私たちはごみをカーペットの下に隠すのではなく、むしろ、捨てます。というのは天の国は近づいたからです。主が来られるからです。私たちは主の来臨に備える必要があります。めちゃくちゃになったものを片づけると、他の物のためのスペースが出来ます。私たちは人々を家に迎え入れることが出来ます。悔い改めると、私たちは神に人生のスペース、場所、空間を与えています。神を歓迎します。

第二朗読では、パウロは人々が調和して生きるよう促しています。彼は、クリスチャンが必ず皆同じではないことを知っています。文化、思い、宗教、性格、などという違いがあると認識しています。しかし、彼は彼らが一致して生き、一緒に神を賛美する声をあげるよう強く進めています。一致ということは、皆が同じだということではありません。一致は皆が互いに、歓迎し合い、許し合い、理解し合い、尊敬し合い、愛し合うことです。一致は相手に対して、心を開くというイエスの模範に倣い、従うことなのです。

兄弟姉妹の皆さん、このパウロの言葉・教えによって、私たちは悔い改めのもう一つの意味を学べます。それは他者を受け入れ、互いを認め、理解し、許し合い、温かく歓迎し、和解し、正しい関係に向かって、他者の方へ歩みよると意味します。

主の降臨の準備をしながら、洗礼者ヨハネの声に耳を傾けましょう。自分の家に帰ってきたら、散らかっているものを片づけて、イエスと他の人々のために、場所を空けましょう。